

若年層におけるデートDVに関する意識調査

報告書

(高等学校・特別支援学校・高等専門学校)

令和4年3月

広島県健康福祉局こども家庭課



目 次

I	調査の概要	3
1	調査目的	3
2	調査項目及び調査対象	3
3	調査時期	3
4	調査方法	3
5	調査実施委託機関	3
6	回収結果	3
7	回答者の属性	4
II	調査結果の概要	5
1	デートDVについての認知	5
2	交際相手からの行為についての暴力としての認識	7
3	男女の役割に対する意識	13
4	デートDVについての予防教育の実施状況	17
5	予防教育の実施状況ごとのデートDVについての認知	18
6	デートDVの予防に関して実施している取組	20
7	デートDV予防教育を行うために必要な支援	21
8	デートDV予防教育を受ける時期	22
III	調査票	23
	デートDVについての意識調査	23
	デートDV予防教育に関する調査	24

I 調査の概要

1 調査目的

若年層におけるデートDVに関する意識を把握し、今後のDV対策の推進のための基礎資料とする。

2 調査項目及び調査対象

調査項目	調査対象
(1) デートDVについての認知	県内の高等学校（定時制・通信制含む）・特別支援学校 高等部及び高等専門学校（140校）の2年生の男女
(2) 交際相手からの行為についての暴力としての認識	
(3) 男女の役割に対する意識	
(4) デートDV予防教育の実施状況別認知度	各学校の養護教諭等担当教諭

3 調査時期

令和3年12月（平成28年，平成29年，平成30年，令和元年，令和2年の調査に続いて6回目）

4 調査方法

Web調査法（県内の対象高校等にQRコードを配付し，アンケートサイトにて回答を得た）

令和元年までは、郵送調査法（県内の対象高校等に調査票を郵送し，学校単位で郵送にて回収した）

5 調査実施委託機関

一般社団法人広島テレワーク協会

6 回収結果

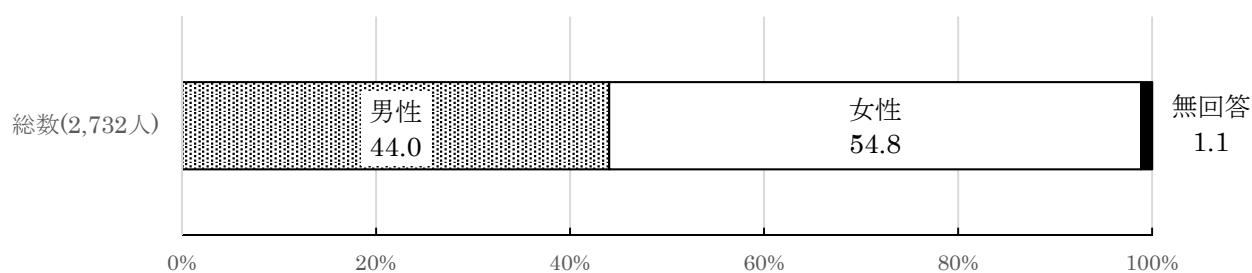
対象者数	有効回収数				有効回収率
	女性	男性	不明	合計	
21,995 票	1,498 票	1,203 票	31 票	2,732 票	12.4%

7 回答者の属性

(1) 性別

問1 あなたの性別は ※答えることが難しい場合は、回答不要です。

図1 性別



(2) 所属

問2 あなたの所属は

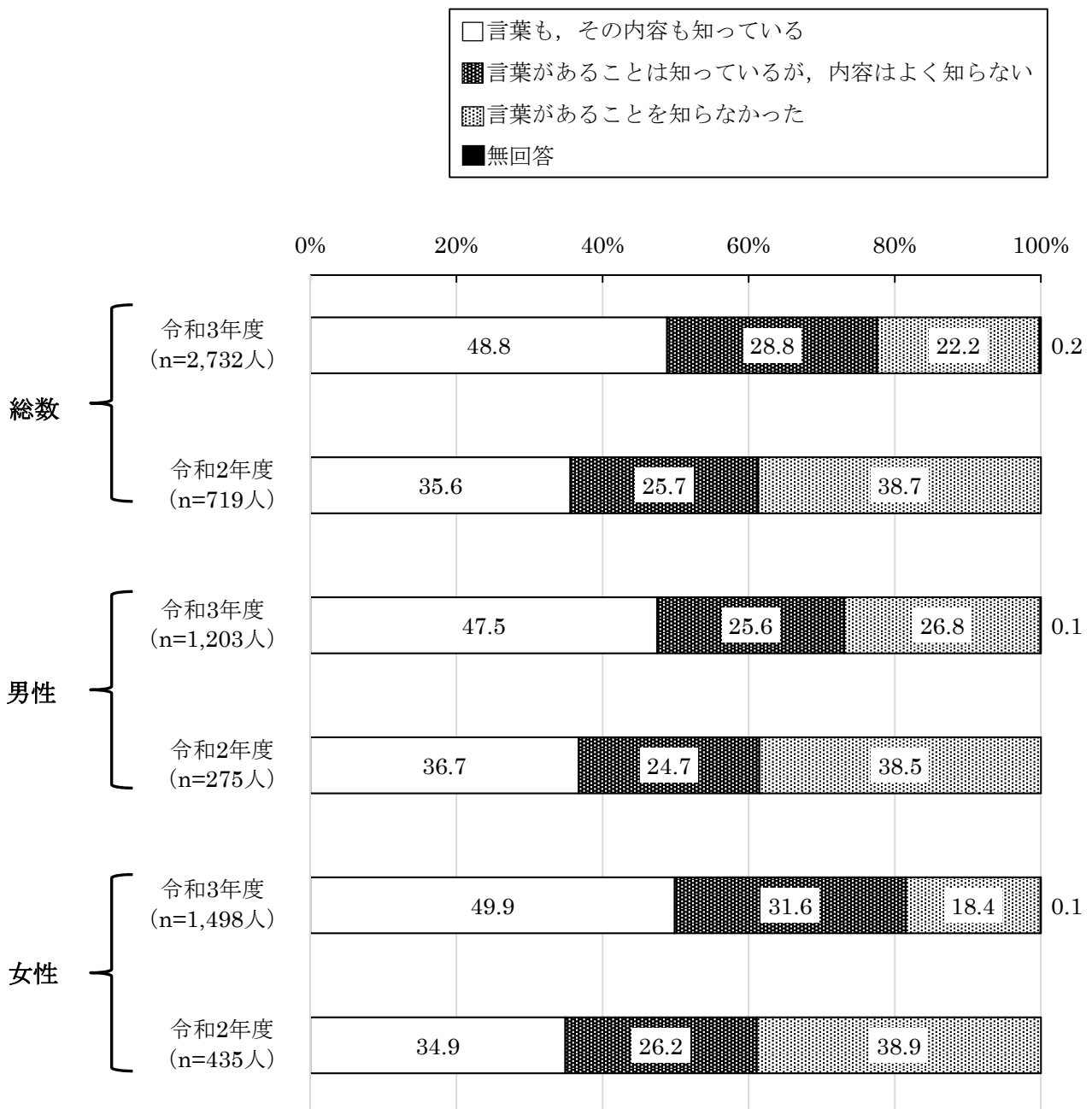
*高等学校等2年生のみが対象のため割愛

Ⅱ 調査結果の概要

1 デートDVについての認知

問3 あなたは、「デートDV」（交際相手からの暴力）について、知っていますか。

図1-1 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度



「デートDV」について知っているか聞いたところ、「言葉も、その内容も知っている」と回答した人は48.8%である。

一方、「言葉があることを知らなかった」と回答した人は22.2%で、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(28.8%)と合わせると51.0%（前回調査：64.4%）であり、5割以上の人に十分な認知がされていない。

男女別にみると、男性では、「言葉も、その内容も知っている」と回答した人は47.5%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(25.6%)、「言葉があることを知らなかった」(26.8%)である。女性では、「言葉も、その内容も知っている」と回答した人は49.9%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」(31.6%)、「言葉があることを知らなかった」(18.4%)となっており、男性のほうが女性よりも認知度が低くなっている。

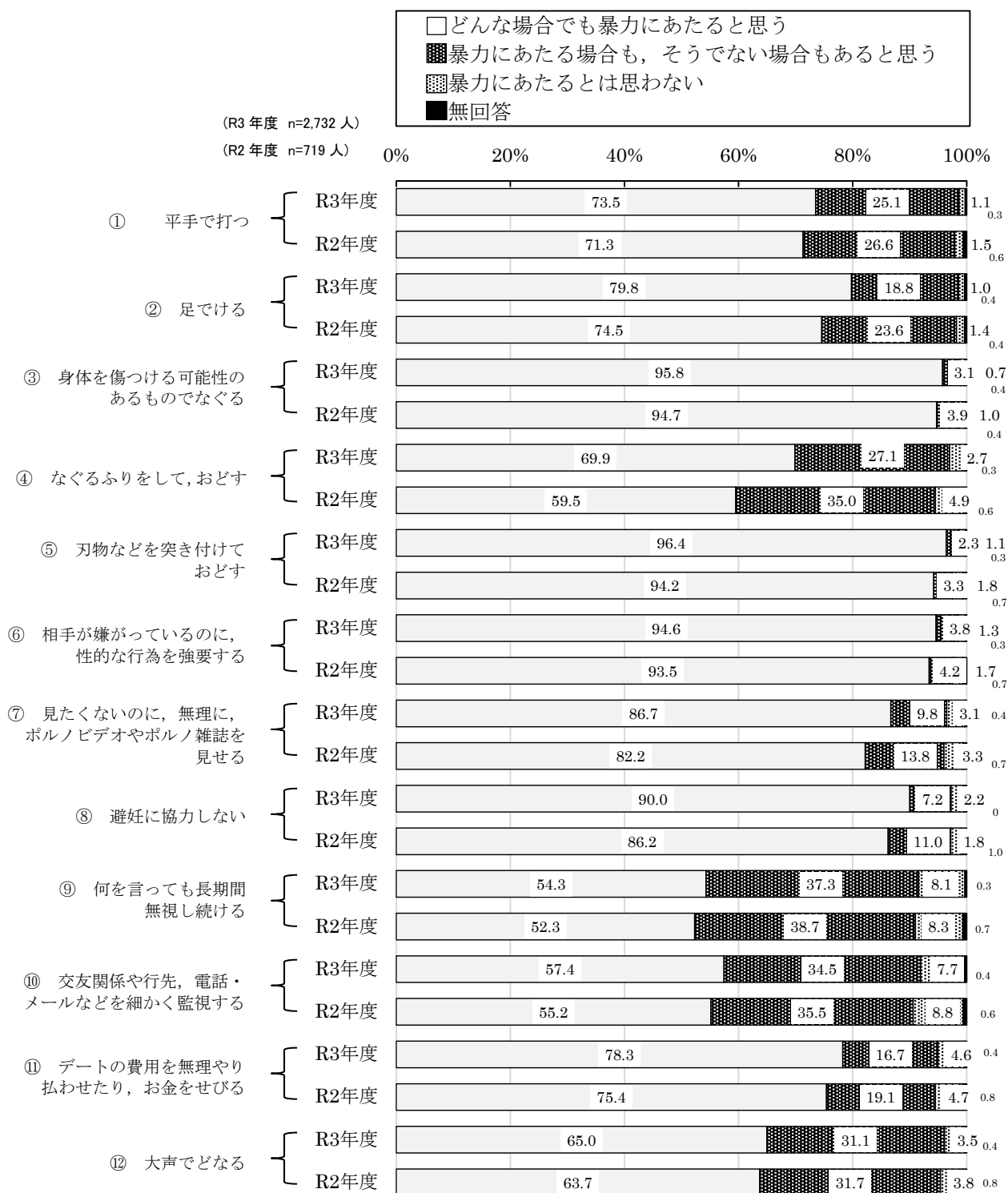
前回調査(令和2年度)と比較すると、「言葉も、その内容も知っている」は前回調査35.6%であったのに対し、今回調査は48.8%で13.2ポイント増加している。「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」は前回調査25.7%であったのに対し、今回調査は28.8%で3.1ポイント増加している。「言葉があることを知らなかった」と回答した人は前回調査38.7%であったのに対し、今回調査は22.2%で16.5ポイント減少している。

男女ともに、デートDVという言葉の認知度は上がっているが、その内容まで理解している人は男女ともに5割に満たず、いまだ十分な認知がされていないことがうかがえる（図1-1）

2 交際相手からの行為についての暴力としての認識

問4 あなたは、交際相手の次のような態度や行動について、暴力だと思いますか。それぞれ、あなたの考えに最も近いものの番号を1つずつ選んで、○を付けてください。

図2-1 交際相手からの行為について暴力としての認識



12項目の行為をあげて、それが交際相手から行われた場合に『暴力にあたると思うか』の意識を聞いた。

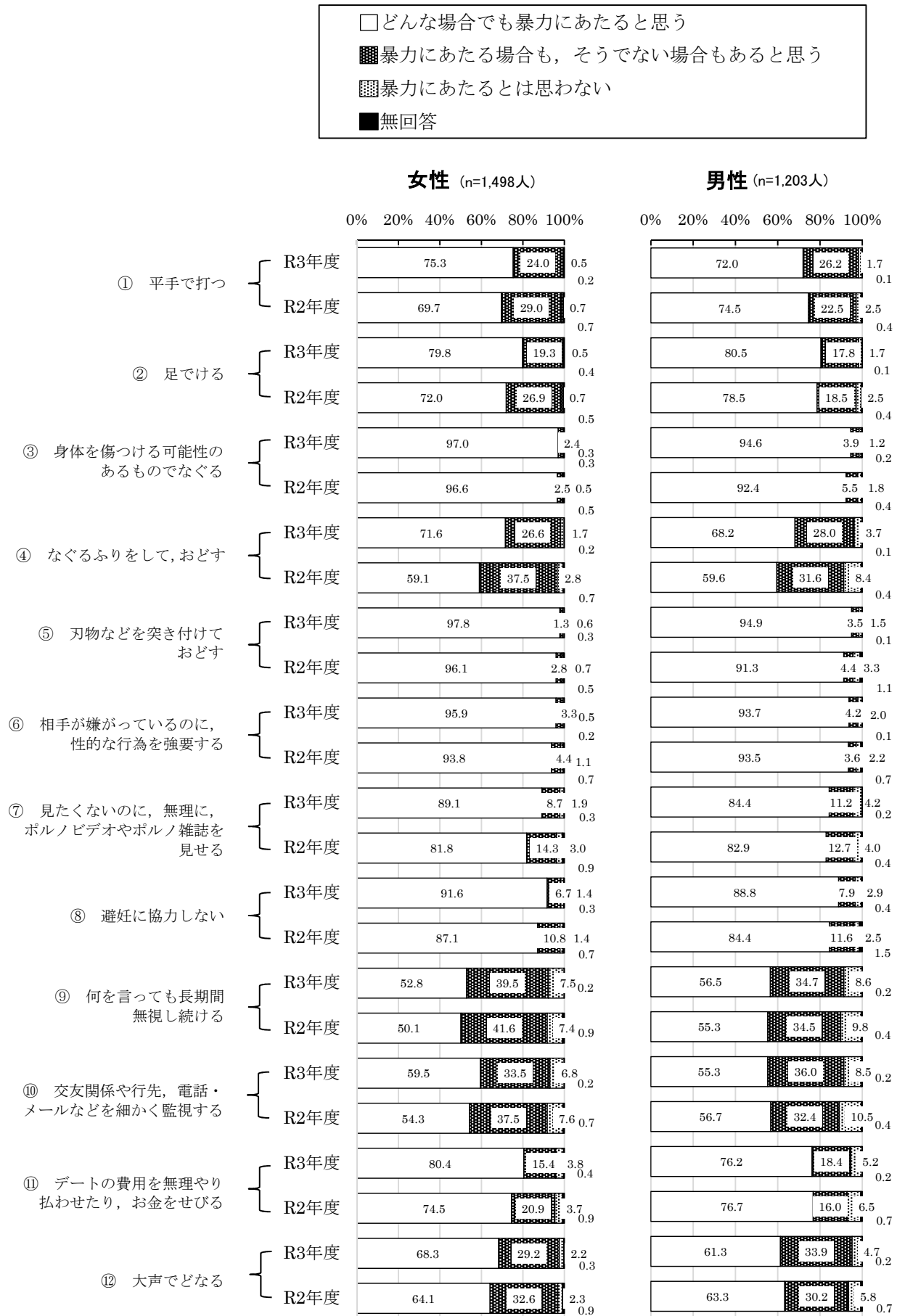
「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考える人が多いのは、「刃物などを突き付けて、おどす」(96.4%)、「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」(95.8%)、「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」(94.6%)、「避妊に協力しない」(90.0%)で、9割以上の人が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と認識している。

また、「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」(86.7%)は8割以上の人が「どんな場合でも暴力にあたると思う」と考えている。

一方、「何を言っても長期間無視し続ける」(54.3%)、「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」(57.4%)は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人は6割に満たない。

前回調査と比較すると、12項目中全項目で認知度が高くなっている。特に、「なぐるふりをして、おどす」は、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人は前回調査では59.5%であったのに対し、今回調査は69.9%で10.4ポイント増加している。(図2-1)

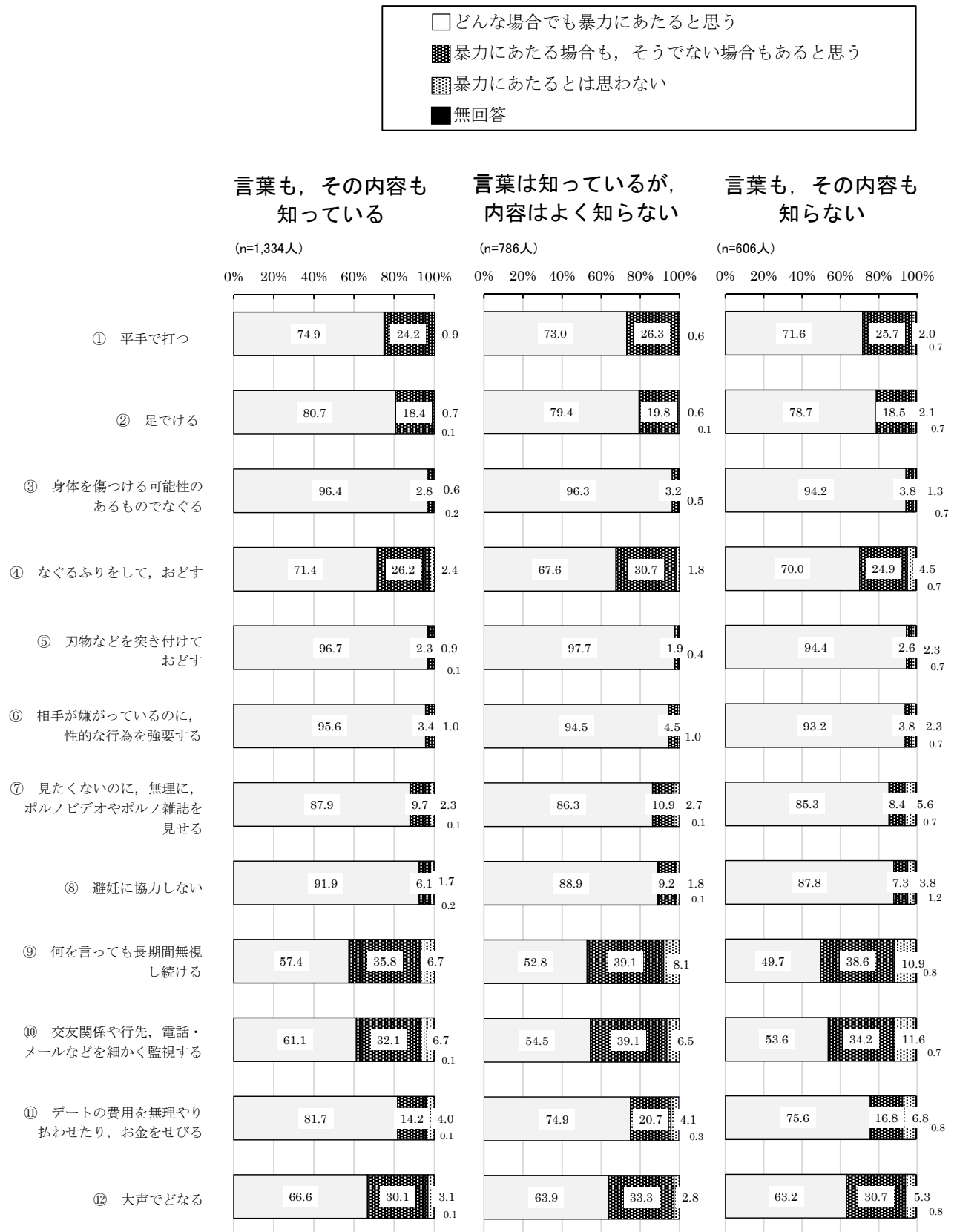
図2-2 交際相手からの行為についての暴力としての認識 [男女別]



男女別にみると、『暴力にあたる』と認識する行為と、『暴力にあたらない』と認識する行為に大きな差はみられないが、12項目中10項目（「平手で打つ」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「なぐるふりをして、おどす」「刃物などを突き付けて、おどす」「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「避妊に協力しない」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなる」）では、女性のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人の割合が高くなっている。

一方、「足でける」「何を言っても長期間無視し続けるについては、男性のほうが「どんな場合でも暴力にあたると思う」と答えた人の割合が高くなっている。（図2-2）

図2-3 交際相手からの行為についての暴力としての認識
 「デートDV」(交際相手からの暴力)の認知度別



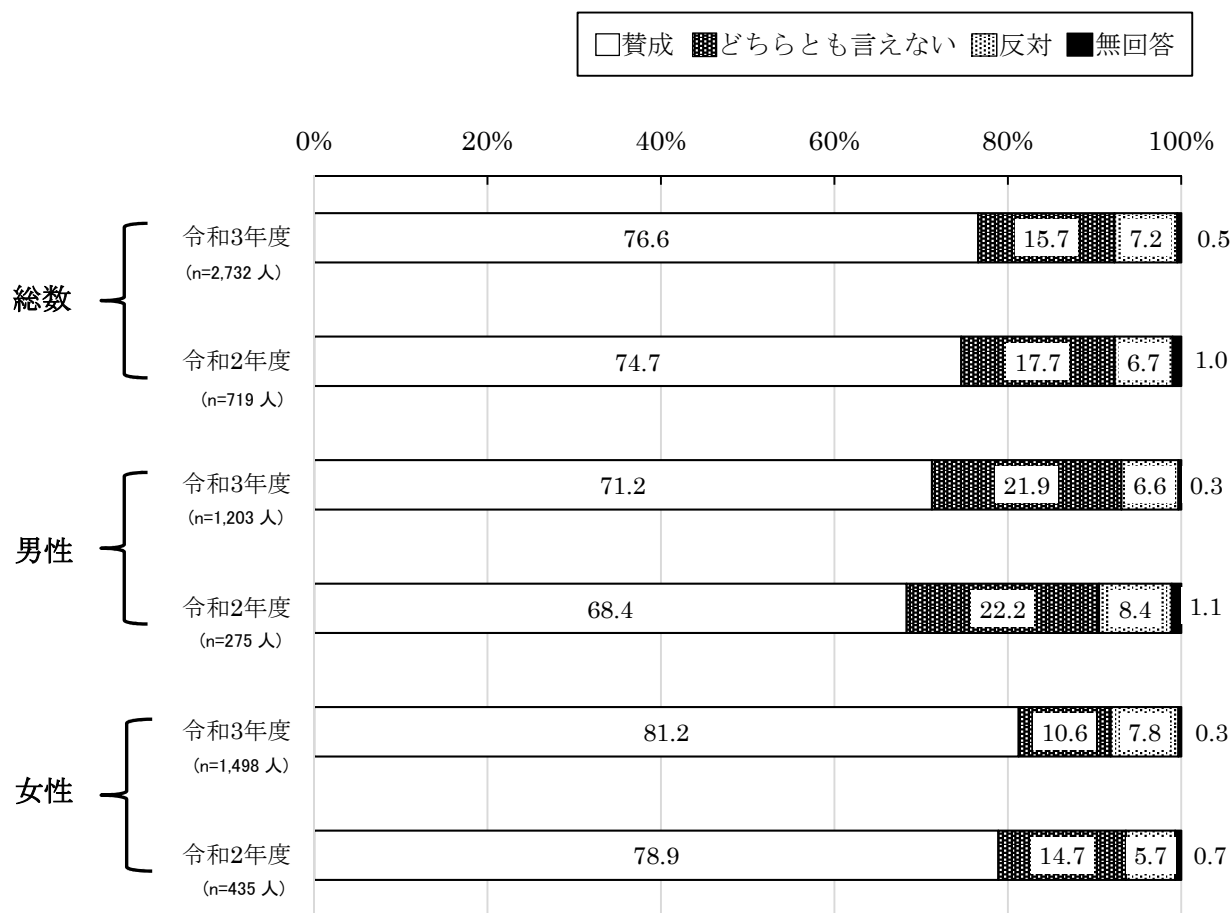
交際相手からの行為についての暴力としての認識を、問3「デートDV」（交際相手からの暴力）についての認知度別にみると、「言葉も、その内容も知っている」人は、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」人、「言葉も、その内容も知らない」人に比べ、12項目中11項目（「平手で打つ」「足でける」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「なぐるふりをして、おどす」「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「避妊に協力しない」「何を言っても長期間無視し続ける」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなる」）で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。

「言葉も、その内容も知らない」人は、「言葉も、その内容も知っている」人、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」人に比べ、12項目中の全項目で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が低くなっている。（図2-3）

3 男女の役割に対する意識

問5 あなたは、「例えば、『夫は外で働き妻は家庭を守るべきである』というような男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について、どう思いますか。

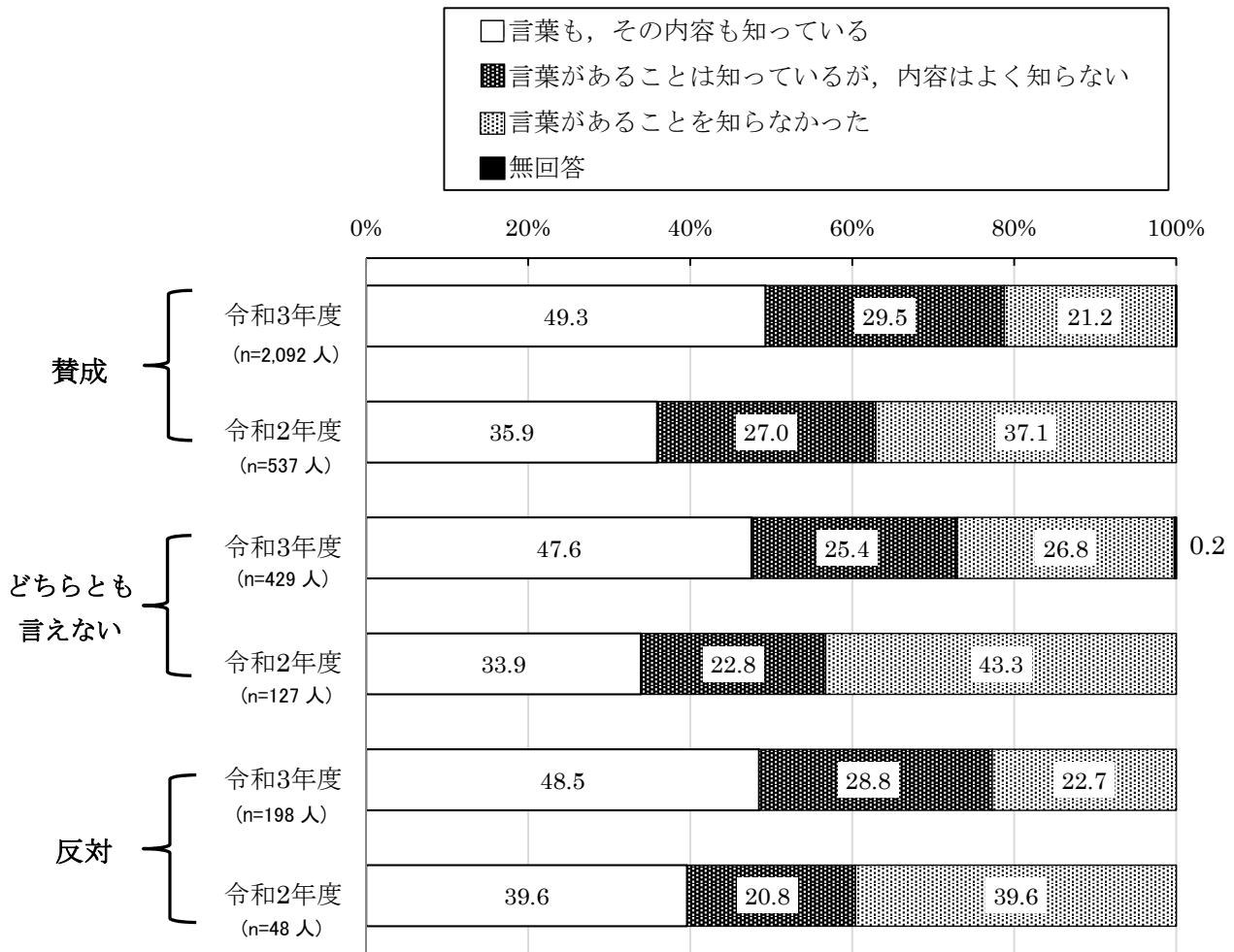
図3-1 男女の役割に対する意識



「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方についてどう思うか聞いたところ、総数では76.6%が「賛成」と答えた。「どちらとも言えない」が15.7%、「反対」が7.2%であった。

男女別にみると、男性は「賛成」が71.2%、「どちらとも言えない」が21.9%、「反対」が6.6%であった。女性は、「賛成」が81.2%、「どちらとも言えない」が10.6%、「反対」が7.8%であった。(図3-1)

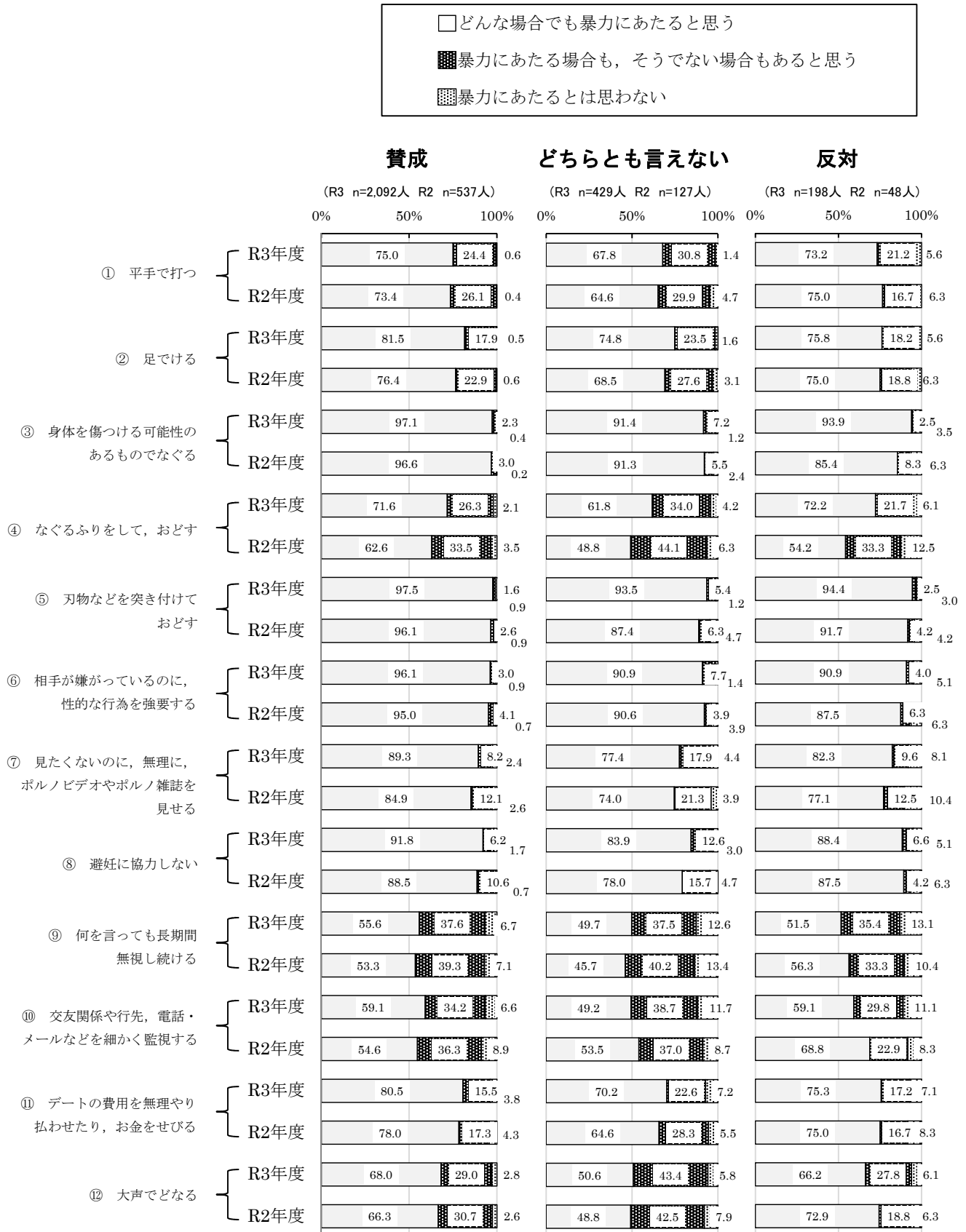
図3-2 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度
 [男女の役割に対する意識別]



男女の役割に対する意識別にデートDVの認知度を比較した。「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について「賛成」と答えた人は、「言葉も、その内容も知っている」が49.3%、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」29.5%、「言葉も、その内容も知らない」21.2%である。男女の役割の対する意識に「どちらとも言えない」と答えた人は、「言葉も、その内容も知っている」47.6%、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」25.4%、「言葉も、その内容も知らない」26.8%である。男女の役割の対する意識で「反対」と答えた人は、「言葉も、その内容も知っている」48.5%、「言葉は知っているが、内容はよく知らない」28.8%、「言葉も、その内容も知らない」22.7%である。

「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について「賛成」と答えた人は、「どちらとも言えない」や「反対」と答えた人に比べて認知度が高くなっている。(図3-2)

図3-3 交際相手からの行為についての暴力としての認識
【男女の役割に対する意識別】



男女の役割に対する意識別に、交際相手からの行為についての暴力としての認識をみると、「男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について「賛成」と答えた人は、「どちらとも言えない」「反対」と答えた人に比べ、12項目中10項目（「平手で打つ」「足でける」「身体を傷つける可能性のあるものでなぐる」「刃物などを突き付けておどす」「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「避妊に協力しない」「何を言っても長期間無視し続ける」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」「大声でどなる」）で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。

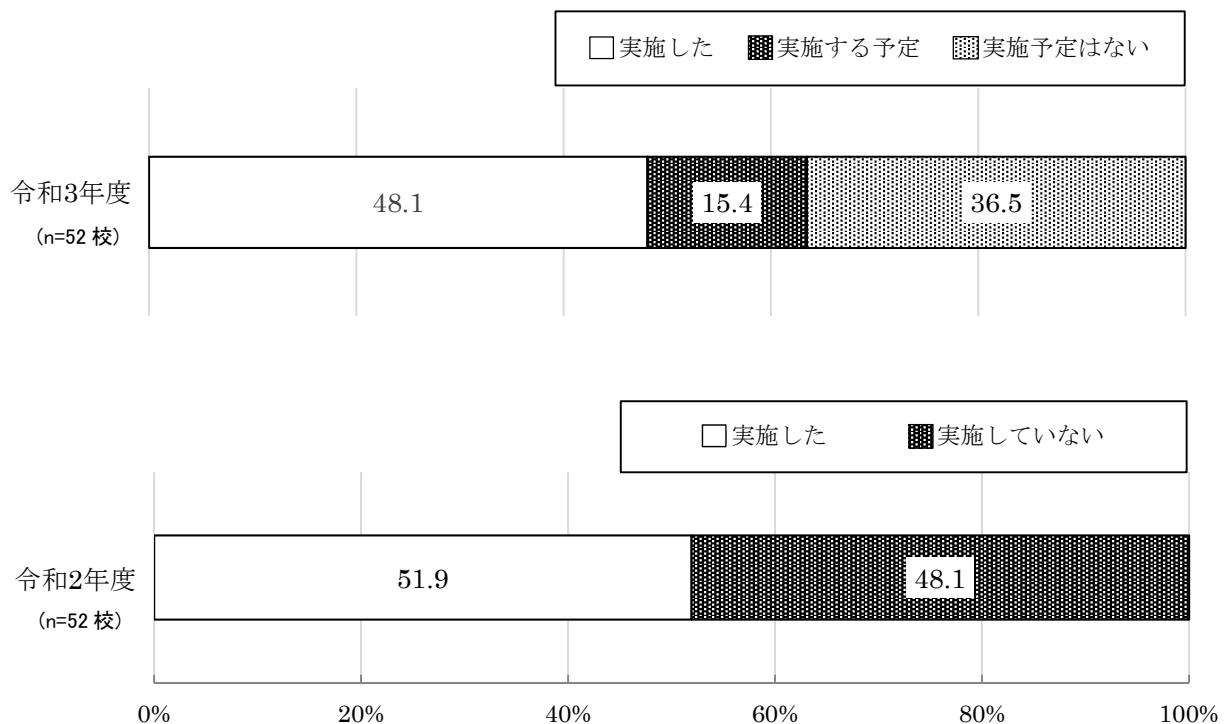
「反対」と答えた人は、「賛成」「どちらとも言えない」と答えた人に比べ、12項目中1項目（「なぐるふりをして、おどす」）で「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。

「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」については、「どちらとも言えない」と答えた人に比べ、「賛成」「反対」と答えた人が、「どんな場合でも暴力にあたると思う」と回答した割合が高くなっている。（図3-3）

4 デートDVについての予防教育の実施状況

問1 デートDVの予防に関する授業・研修・講演会等（非行防止教室等の生徒指導に関する講演会，命の大切さや良好な人間関係などに関する講演会等，デートDVが直接的なテーマではなかった場合を含む。）を実施したことがありますか。

図4-1 デートDVについての予防教育の実施状況



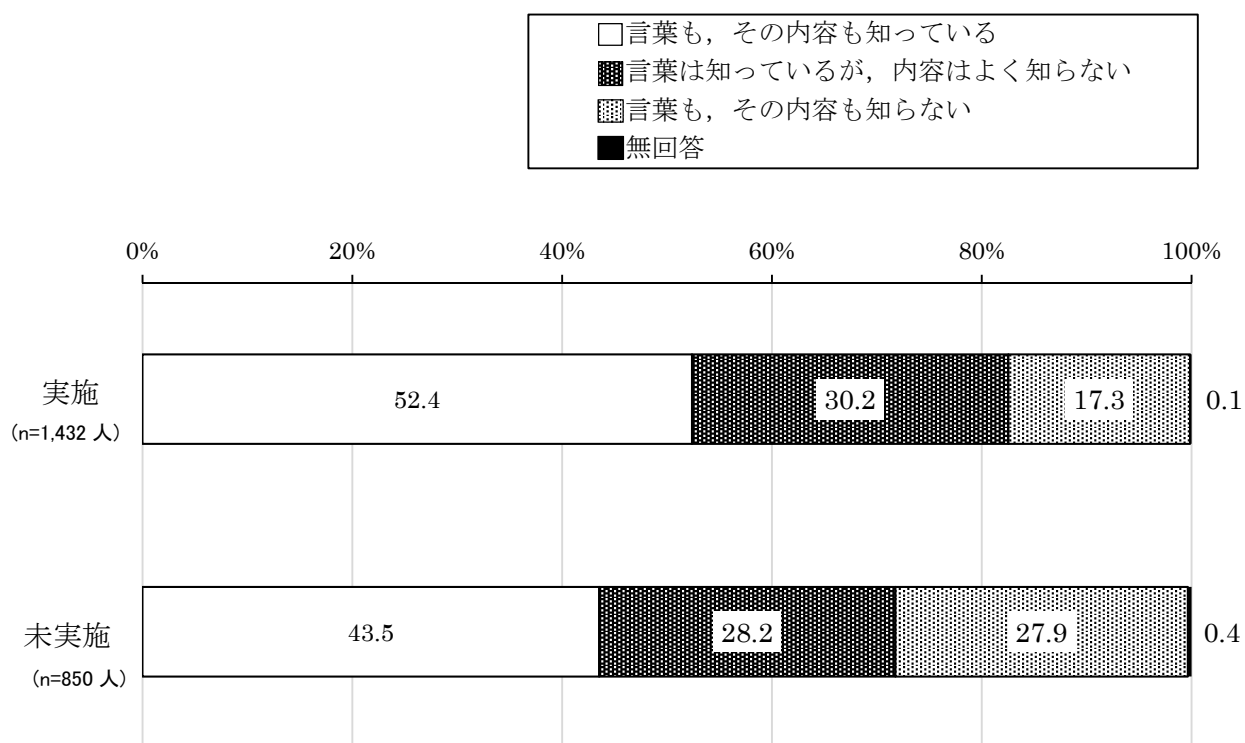
デートDVの予防に関する授業・研修・講演会等を実施したことがあるかどうか聞いたところ、令和2年度は「実施した」51.9%、「実施していない」48.1%であった。令和3年度は「実施した」48.1%、「実施する予定」15.4%、「実施予定はない」36.5%であった。

約4割の学校で予防教育が行われていない。(図4-1)

5 予防教育の実施状況ごとのデートDVについての認知

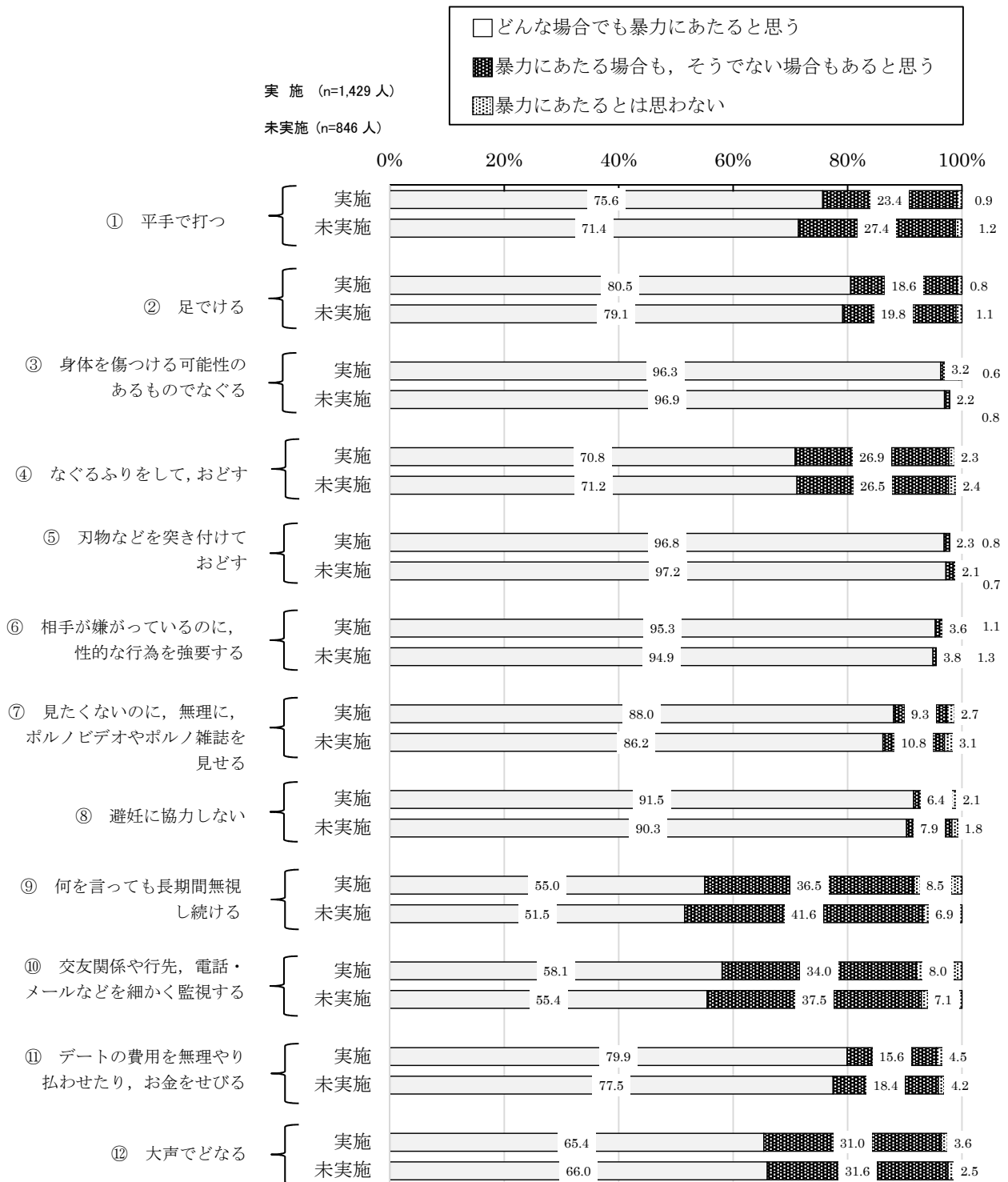
※令和2年度及び令和3年度において、1度はデートDVについての予防教育を行った学校の生徒を「実施」グループ、令和2年度及び令和3年度において、デートDVについての予防教育を行っていない学校の生徒を「未実施」グループとする。

図5-1 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度
【デートDV予防教育実施状況別】



デートDVについての予防教育の実施状況別の認知度を比較すると、「言葉も、その内容も知っている」と答えたのは、予防教育を実施した学校では52.4%、未実施校では43.5%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」と答えたのは、実施校では30.2%、未実施校では28.2%であった。「言葉があることを知らなかった」と答えたのは、実施校では17.3%、未実施校では27.9%であった。予防教育を実施した学校の生徒の認知度が高くなっている。(図5-1)

図5-2 交際相手からの行為について暴力としての認識
 [デートDV予防教育実施状況別]

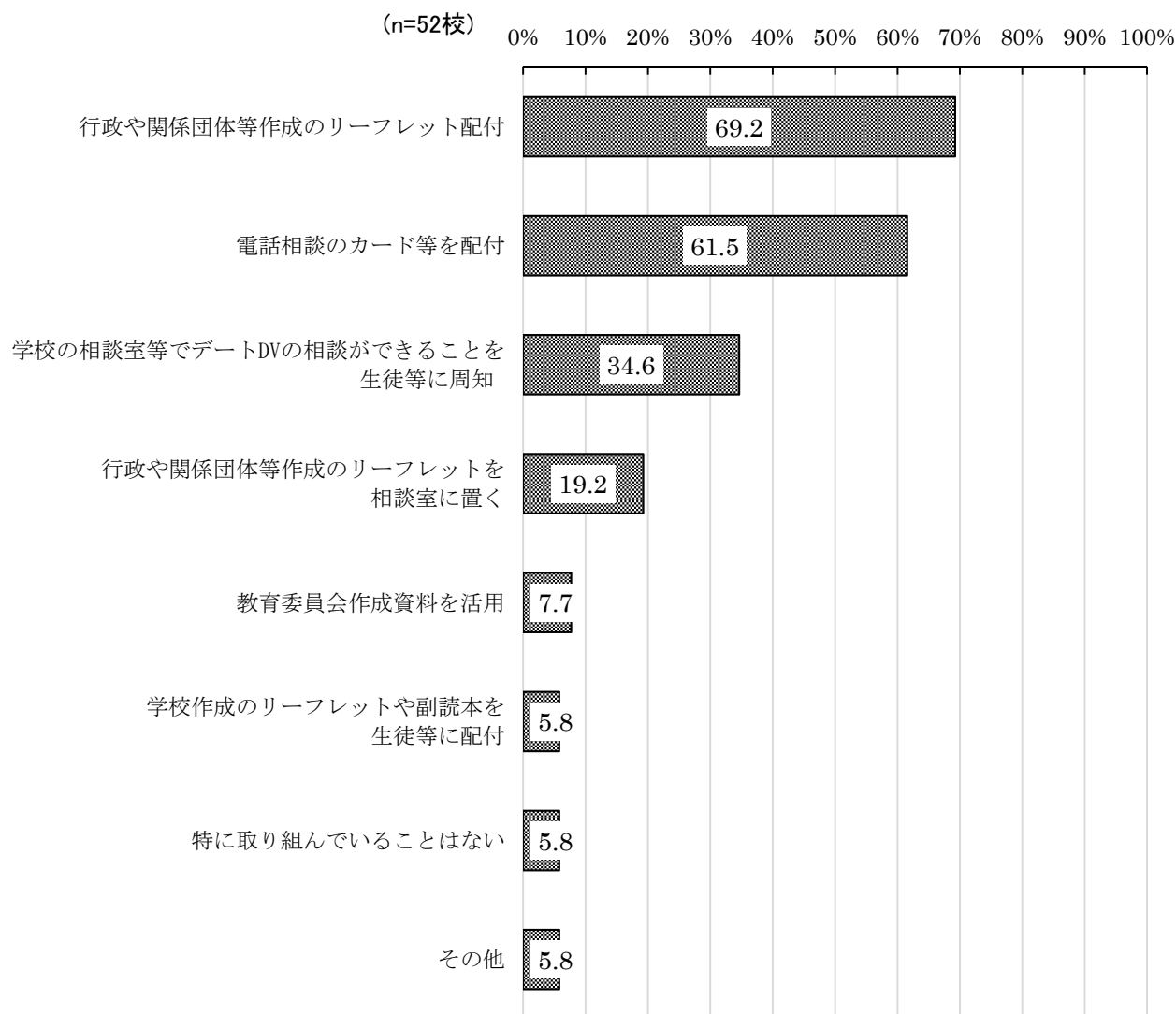


デートDVについての予防教育の実施状況別に、交際相手からの行為についての暴力としての認識を見てみると、12項目中8項目（「平手で打つ」「足でける」「相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する」「見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる」「避妊に協力しない」「何を言っても長期間無視し続ける」「交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する」「デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる」）で、予防教育を実施した生徒のほうが認知度が高くなっている。（図5-2）

6 デートDVの予防に関して実施している取組

問2 授業や講演以外に、デートDVの予防に関して実施している取組はありますか。
あてはまる番号すべてに○を付けてください。

図6 デートDVの予防に関して実施している取組はありますか

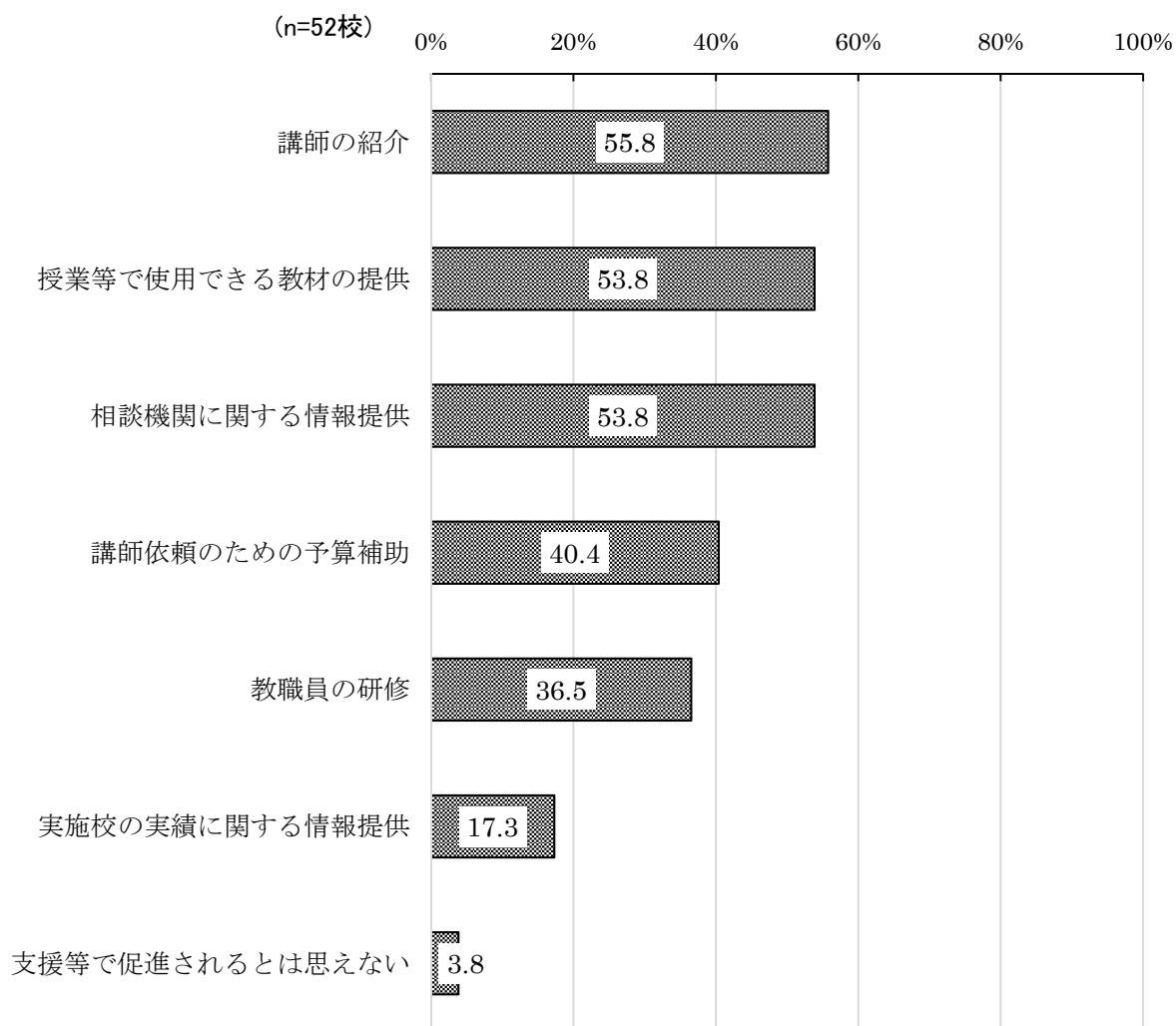


デートDVの予防に関して実施している取組について聞いたところ、最も多いのは「行政や関係団体等作成のリーフレット配付」(69.2%)、2番目に多いのは「電話相談のカード等を配付」(61.5%)であり、ともに6割を超えている。「学校の相談室等でデートDVの相談ができることを生徒等に周知」は34.6%、「行政や関係団体等作成のリーフレットを相談室に置く」は19.2%、「教育委員会作成資料を活用」は7.7%であった。「学校作成のリーフレットや副読本を生徒などに配付」「特に取り組んでいることはない」「その他」がそれぞれ5.8%であった。(図6)

7 デートDV予防教育を行うために必要な支援

問3 デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思えますか。あてはまる番号3つに○を付けてください。

図7 デートDV予防教育を行うために必要な支援

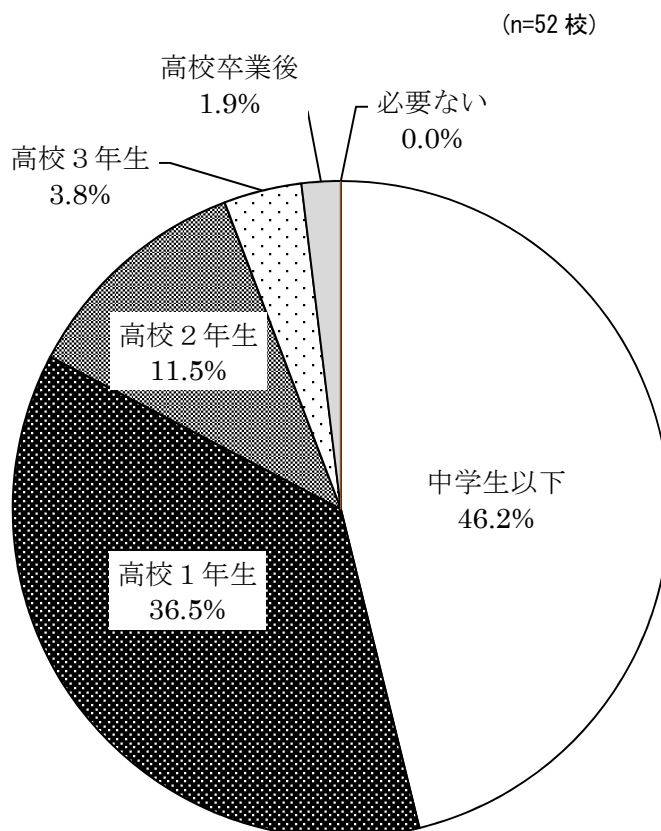


デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思うか聞いたところ、「講師の紹介」が55.8%と最も高く、「授業等で使用できる教材の提供」「相談機関に関する情報提供」(53.8%)、「講師依頼のための予算補助」(40.4%)、「教職員の研修」(36.5%)、「実施校の実績に関する情報提供」(27.3%)と続いた。また、「支援等で促進されるとは思えない」が3.8%であった。(図7)

8 デートDV予防教育を受ける時期

問4 デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思いますか。もっとも適していると思う時期に○を付けてください。

図8 デートDV予防教育を受ける時期



デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思うか聞いたところ、「中学生以下」と答えた学校が46.2%で最も多かった。2番目に多かったのは「高校1年生」(36.5%)であり、早い時期から予防教育を受けた方が良いと考える学校が8割を超えている。(図8)

Ⅲ 調査票

デートDVについての意識調査

問1 あなたの性別は

※答えることが難しい場合は、回答不要です。

1 男性	2 女性
------	------

問2 あなたの所属は

1 高等学校・高専 (特別支援学校高等部)	2 大学 専修学校
--------------------------	--------------

問3 あなたは、「デートDV」(交際相手からの暴力)について、知っていますか。

1 言葉も、その内容も知っている
2 言葉があることは知っているが、内容はよく知らない
3 言葉があることを知らなかった

問4 あなたは、交際相手の次のような態度や行動について、暴力だと思いますか。

それぞれ、あなたの考えに最も近いものの番号を1つずつ選んで、○を付けてください。

	どんな場合でも暴力にあたると思う	暴力にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	暴力にあたるとは思わない
①平手で打つ	1	2	3
②足でける	1	2	3
③身体を傷つける可能性のあるものでなく	1	2	3
④なぐるふりをして、おどす	1	2	3
⑤刃物などを突き付けて、おどす	1	2	3
⑥相手が嫌がっているのに、性的な行為を強要する	1	2	3
⑦見たくないのに、無理に、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
⑧避妊に協力しない	1	2	3
⑨何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3
⑩交友関係や行先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3
⑪デートの費用を無理やり払わせたり、お金をせびる	1	2	3
⑫大声でどなる	1	2	3

問5 あなたは、「例えば、『夫は外で働き妻は家庭を守るべきである』というような男女の役割を固定的に捉える意識にとらわれることなく、誰もが共に参画し、責任を分かち合い、お互いに協力する」という考え方について、どう思いますか。

1 賛成	2 どちらとも言えない	3 反対
------	-------------	------

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

問3 デートDV予防教育を行うために必要な支援は何だと思えますか。あてはまる番号3つに○をつけてください。

1 講師の紹介
2 講師依頼のための予算補助
3 授業等で使用できる教材の提供
4 実施校の実績に関する情報提供
5 相談機関に関する情報提供
6 教職員の研修
7 支援等で促進されるとは思えない

問4 デートDVの予防教育を受けるのは、いつ頃が良いと思えますか。もっとも適していると思う時期に○を付けてください。

1 中学生以下
2 高校1年生
3 高校2年生
4 高校3年生
5 高校卒業後
6 必要ない